

二代藩主 伊達斉邦

仙台市博物館 学芸員 黒田 風花



一門の少年、藩主になる

文政一〇年(一八二七)、仙台藩一門登米伊達家の伊達宗充の嫡子、幸五郎は、仙台藩主の跡継ぎとなりました。一二代藩主伊達

斉義が病に倒れ、斉義の息子穰三郎がまだ三歳と幼年だったためです。この時、幸五郎もまた一〇歳と年少でしたが、五代藩主伊達吉村の曾孫で、一門の子息の中では藩主家に最も近い血筋だったので、跡継ぎに選ばれたのだと考えられます。同年一月、斉義が逝去し、翌月、幸五郎による相続が幕府から正式に認められました。翌年、幸五郎は將軍徳川家斉から一字を与えられ、斉邦と称しました。

少年藩主の後見人となったのは、幕府若年寄の堀田正敦でした。正敦は九代藩主伊達周宗の後見人をつとめた人物です。正敦による後見を受けながら、斉邦を藩主とした藩政がはじまりました。

天保の危機に立ち向かう

天保四年(一八三三)、東北地方は冷夏に見舞われ、凶作となりました。折しもこの前年、後見人の正敦が死没し、この年の正月に、斉邦が自ら藩政を執ることを宣言したばかりでした。以後、数年にわたり凶作・飢饉が続き、「七年飢饉」とも呼ばれる天保の飢饉の始まりでした。また、同じ天保期には、

冷害だけでなく、大雨・長雨による洪水や地震が仙台藩を襲い、藩の役人を含めた領民すべての生命が危機に直面します。この危機に対応することが、藩政の急務でした。

斉邦は、城下の人々を工事のために雇い、米や大豆を与える御救普請をおこないました。更に、藩が農民から米を買い上げ、買米制を見直して、農民が米をより高い価格で売ることができるようになり、藩の米蔵から米を払い下げて城下に供給したりするなど、金銭と食料を領民に供給するための経済政策を実施しました。

また、凶作による領内の米不足を解消するため、藩外から米を買い入れ、領民を救済するための米の確保を目指します。天候による凶作が広域化していたため、米の確保は難しく、城下の商人達へ協力を仰ぐこともありました。

藩内外での評価

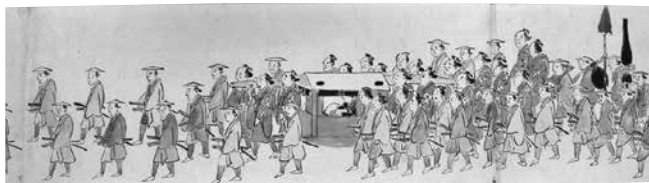
斉邦は、天保の危機に対して、自ら率先して質素節約につとめました。その節約ぶりは飢饉が起きてから斉邦は茶粥しか食べていないと噂されるほどでした。また、斉邦には脚気の持病があり、湯治を勧められたにもかかわらず、藩主が出かけると出先の領民に負担を強いることになるからと湯治を固辞したそうです。領民に対し、理想的な藩主として振る舞おうと努力していたのでしょう。

このような斉邦の人柄は、領民から高く評価されていたようです。天保の危機に対する斉邦の救済政策は、藩外への正貨流出を招き、藩の財政難と領内の物価高という結果をもたらしましたが、藩内の町人や村人による飢饉の記録には、その政策に対する好意的な評価が表されています。

斉邦は、江戸城中で、水戸藩主徳川斉昭、津山藩主松平斉民とともに「日本三賢君」と称されたという記録があります。江戸の市中でも、仙台藩という大藩をよく治めている殿様として評判だったようです。藩外でも、斉邦は藩主として好評を得ていました。

斉邦は、天保一二年(一八四一)、江戸藩邸にて病死します。自ら藩政を執りはじめた八年後、二五歳の時でした。若い時分から藩政運営を担った心労や、領民の目を強く意識した質素な生活が、死期を早めたのかもしれないと評されています。斉邦没後、一三代藩主となった穰三郎、伊達慶邦は、後年

斉邦を回顧し、登米伊達家出身で藩主になり、若くして家中をまとめ、藩政を主導したのは並大抵のことではない、と評価しています。



天保六年伊達斉邦江戸登城行列図(部分) 仙台市博物館蔵  
斉邦が江戸城に登城する時の行列の様子を描いています。藩が天保の危機に瀕していても、藩主は江戸に参勤しなければいけませんでした。

※本稿では仙台市博物館の学術研究機関たる立場から、歴史上の人物名に敬称を付していません。

特別展 戊辰戦争150年 12月9日(日)まで好評開催中!

今年には戊辰戦争から150年目にあたります。この展覧会では、開国が引き起こした幕末の動乱から、戊辰戦争とその後の歴史を、古文書や絵図、旗や武器など約230点の資料でたどります。(会期中、一部展示替えがあります。)

【観覧料】一般・大学生1,000円、高校生500円、小・中学生400円  
※10名以上の団体は各100円引き。※その他各種割引あり。詳しくはお問合せください。  
【開館時間】9:00~16:45(入館は16:15まで) 【会期中の休館日】毎週月曜日

詳しくはホームページをご覧ください 仙台市博物館 検索

最後の藩主 伊達慶邦の決断 仙台藩はどう戦ったのか



伊達慶邦連言書(部分) 仙台市博物館蔵



伊達慶邦像 仙台市博物館蔵

仙台展限定の資料も多数!

仙台藩ゆかりの資料を重点的に展示。新潟・福島で開催した「戊辰戦争150年展」を観た方にもお楽しみいただけます。

仙台市博物館 SENDAI CITY MUSEUM

TEL:022-225-3074 ▶11月の休館日:毎週月曜日

〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡) ▶ツイッター @sendai\_shihaku